

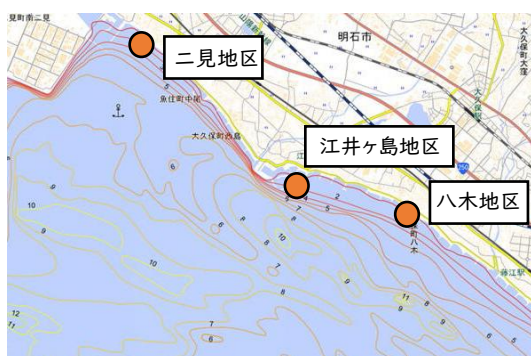
施肥の調査結果について

令和7年度における豊かな海づくり再生事業（施肥）に係る効果調査の結果について、報告します。

1 効果調査の概要及び結果（施肥の有効性について）

(1) 概要

- ① 明石市地先のそれぞれ底質環境が異なる3地点二見地区（砂泥地）、江井ヶ島地区（砂地）、八木地区（砂礫地）の水深5m以下の浅海域で調査を実施しました。



調査地点

月	11		12		1		2		3
日	13	22	2	20	6	19	10	18	5
二見地区	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江井ヶ島地区	○	○	○	○					
八木地区	○	○	○	○					

施肥実施日（150kg/回）

- ② 3地点の調査区で施肥を行う「施肥実施区」と施肥を行わない「非実施区」を設け、それぞれに小型魚礁を設置し、その周辺に集まる底生生物やその生物の生息痕（あと）、また、魚類の餌生物のすみかとなる海藻の繁茂状況などの経過観察を行いました。

- ③ 「施肥実施区」において、肥料は粒状発酵鶏糞を使用し、11月から3月にかけて、投入量が1 kg/m²・月となるように、150kgを毎月2回、各地点300 m²の範囲で投入しました。

※ 江井ヶ島地区・八木地区は漁業活動との兼ね合いにより1月以降は施肥未実施。

(2) 結果

（水深 -4.7m）

【生物の蠕集状況】：施肥開始4か月後

（R8.3.12 二見地区調査）

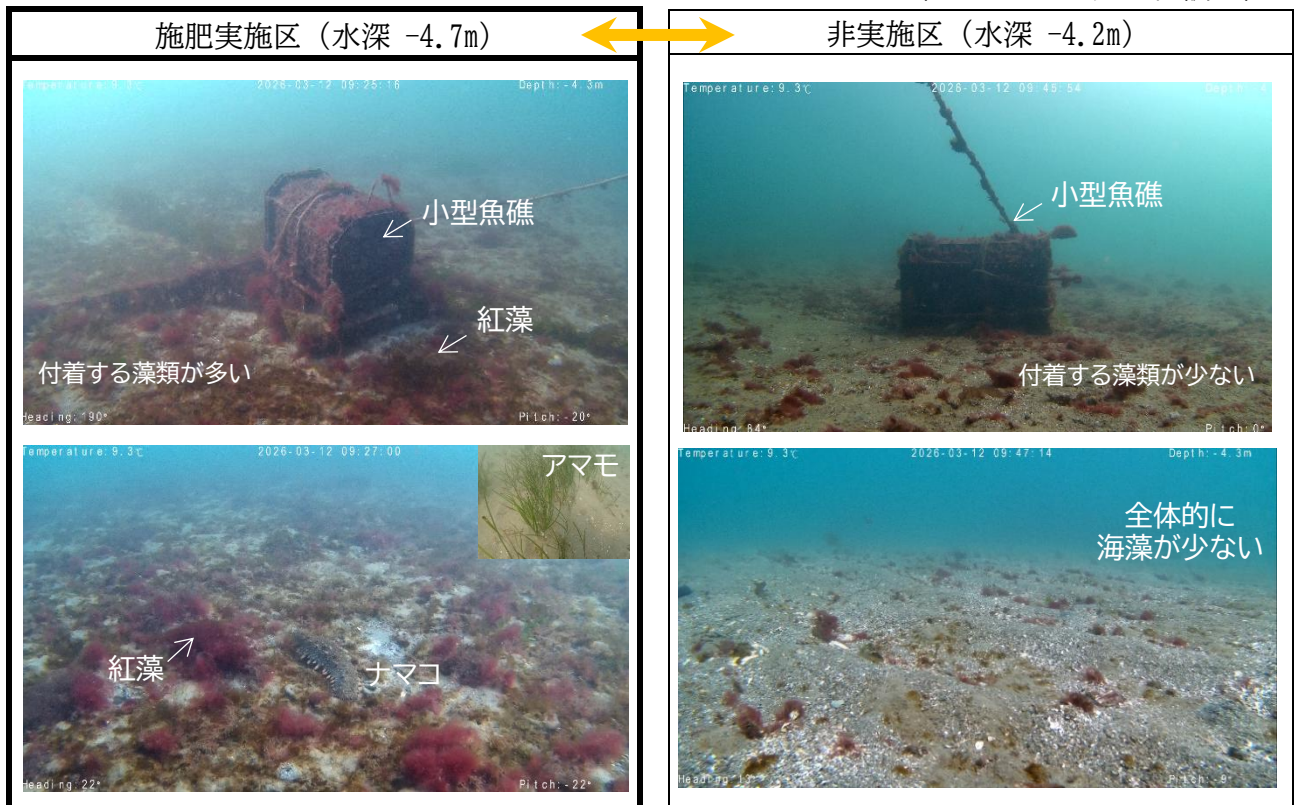


施肥実施区では、非実施区と比べ、ナマコやゴカイ（多毛類）の生息痕（糞や巣穴）、その他マダコやオコゼ等の底生生物が多く見られました。

【海藻の繁茂状況】：施肥開始4か月後

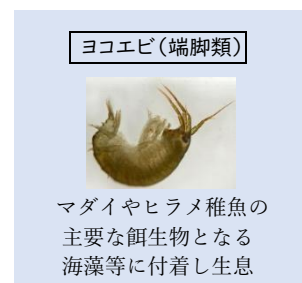
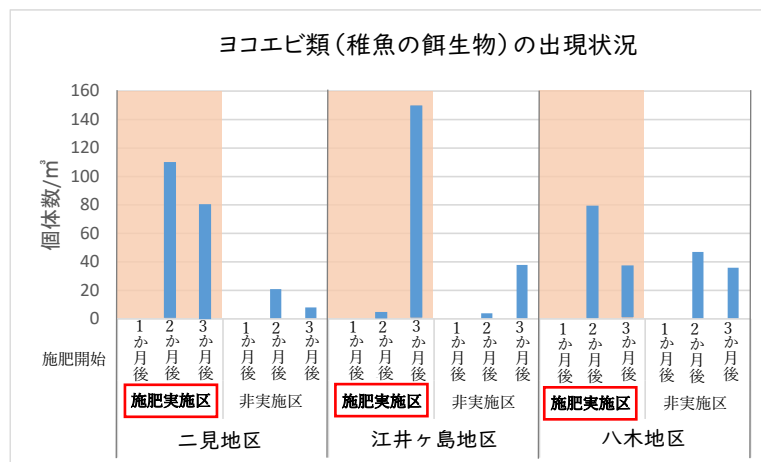
間隔 200m

(R8.3.12 二見地区調査)



施肥実施区では、非実施区と比べ、海藻(褐藻・紅藻類)繁茂が顕著に見られました。

【ヨコエビ類(稚魚の餌生物)の出現状況】：施肥開始1～3か月後



いずれの地区も施肥実施区において、ヨコエビ類の出現数が多い結果となりました。この結果から、施肥実施区において海藻が多く繁茂することによりヨコエビ類がたくさん生息していることから、魚介類の良好な餌場が形成されていることが確認されました。

2 今後の方向性について

施肥によって、ナマコやマダコなどの底生生物や海藻の出現が多くなることが認められました。

また、ヨコエビ類(稚魚の餌生物)の増加にも寄与し、魚類にとって良好な餌環境を生み出す効果があることが示されました。

今後も施肥と合わせて効果調査を継続していくことで、効果的な豊かな海づくりの取組みを進めてまいります。